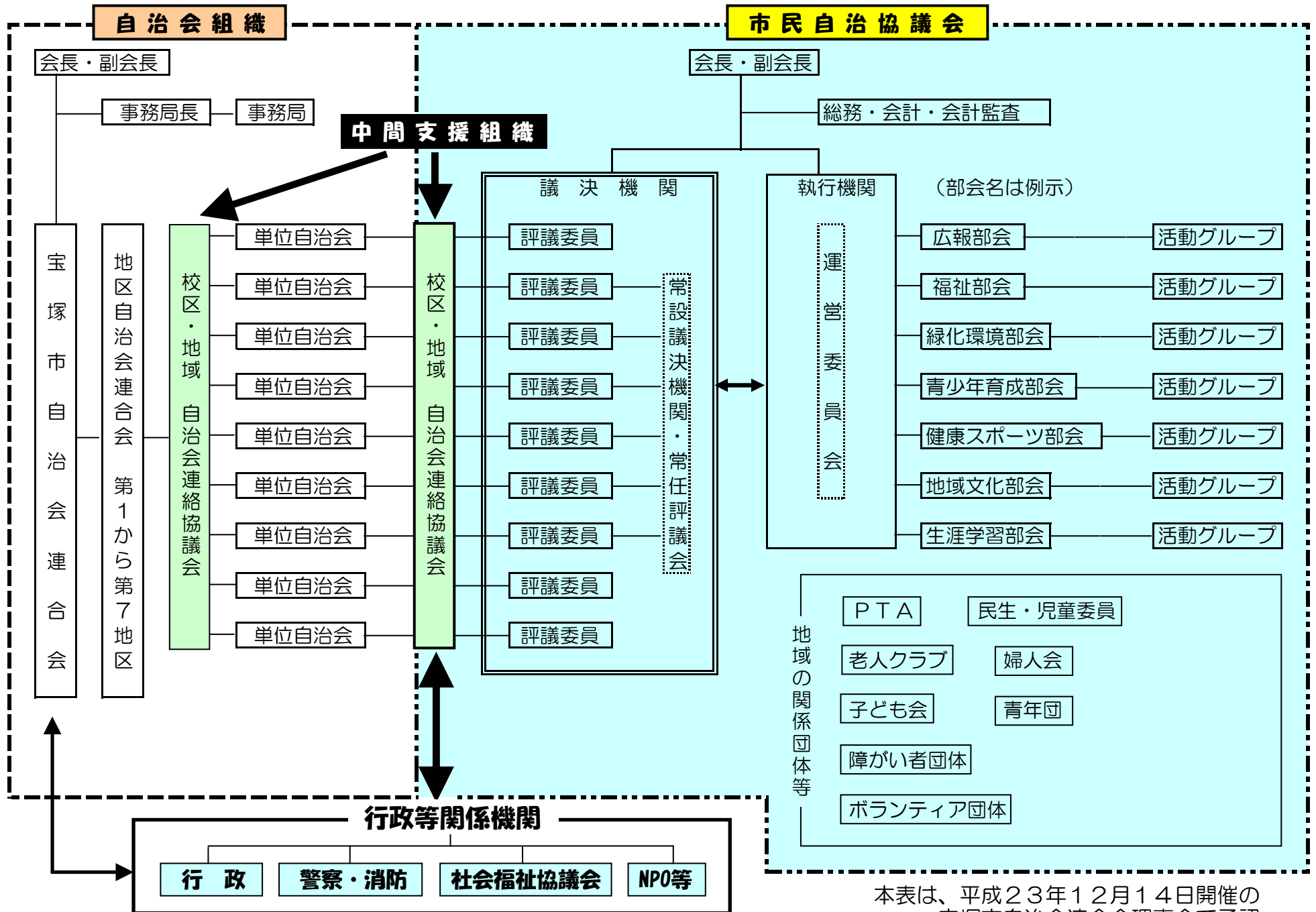


# 市民組織関係図

<宝塚市自治会連合会>



本表は、平成23年12月14日開催の宝塚市自治会連合会理事会で承認。

# 自治会力の拡充とまちづくり協議会との連携について

自治会連合会理事会

## はじめに

自治会加入率が年々下がりつつあり、自治会長の任期が2年以内の自治会が約70%と圧倒的に自治会力が蓄積しにくい状況にある。更に400世帯以下の自治会が77%に達し、活動範囲が限定的になる可能性がある。昨年の会長研修会で「パワフルで魅力的な自治会づくり」をテーマに議論され、アンケートの結果とあわせて

- (1)自治会未結成地区(マンション等)、新規開発地区への自治会加入促進を行政と協力し積極的に推進(拡大)
- (2)各自治会内で加入率を上げ、自治会の事業の見直し、内部組織の再点検等を通じて自治会活動内容の活性化を計る(充実)。
- (3)1,2年任期会長自治会への迅速な研修については地区連合会の概ね小学校区単位のグループ化を推進して、各单位自治会全体の底上げの必要性があり、まちづくり協議会との連携前に自治会のパワーアップと主体性の強固な確立が直面する課題である。

## 1、自治会とまちづくり協議会の関係

各地域には夫々の歴史や経緯があり、どのような連携形態がベストか一言に結論付けることは困難であるが、より高度な「地域住民の満足度」を高めるには、77%の現行の400世帯以下の狭地域自治会活動だけでは限界があり、ある程度の規模を持った地域範囲で住民の民意形成が出来る住民組織が必要な場合がある。

しかし自治会が安易に現行のまちづくり協議会の議決機関としてまちづくり協議会に取り込まれることは、短期任期制の自治会長システムの実態の中で、長期にわたる活動家を中心となっているまちづくり協議会の形骸化した民意形成機関として利用され、結果として自治会連合会の空洞化を促すリスクが大きい。その意味でまず自治会力を拡充し、主体性を堅持しながらまちづくり協議会との連携を視野に入れる事が肝要である。

## 2、協働のための共有の理念が持てるか

自然的に発生した既存集団・・・・・・・・自治会 (当番意識)  
政策的に成立させたボランティア集団・・・・・・・・まちづくり協議会 (善意思識)

発生と肌合いの違う集団の協働体制は上記の「住民満足度アップのために」をキーワードにして過去の経緯を越えて大同団結して連携できるかにある。又過去自治会が創り上げてきた活動を阻害する連携であってはならない。近隣地区内でできる活動は自治会で執行し、広域地域でやる方が効率的な活動はまちづくり協議会に委託し役割分担、機能分担をはっきり事前に十分協議をして連携関係を樹立すべきである。

## 3、自治会とまち協の役割分担、機能補完例

既にまちづくり協議会が役割分担しようとしている活動を自治会が活動している場合もあり、連合会レベルで一律に決定することがかえって自治会の活動を限定することになり、各地域、各小学校区単位の自治会グループで事情に合わせて決定し、必要に応じてまちづくり協議会と協議し、役割分担することは自由である。

但し自治会連合会の会則、主体性や自治会固有の活動を損なう機能移管協議は自治会連合会の組織維持のため自ずから制約があり、認められない。又自治会固有の機能・活動に対し、自治会構成員以外の構成員が参加する他の組織・機関で決定された事項は自治会連合会に対して効力を有しない。

## 4、自治会連合会のまちづくり協議会との連携に対する方針

自治会とまちづくり協議会との「協働のまちづくり」を目指して、自治会連合会としては現状を直視し、共通の課題共有の問題点を抱える生活圏、地域圏の単位自治会の協力体制を確立するため、例えば小学校区を基準とする単位自治会が地区連合会の内部組織として連絡調整を行い協議する連絡協議会を設けて、相互の自治会力レベルを向上すると共に、必要に応じまちづくり協議会と協議し、新しい「地域住民自治協議会」的な組織の住民の合意形成機関を担当できる活動を自治会連合会として全面的に支援する。具体的な方法については各小学校区の自治会連絡協議会の要望、地域的事情により検討する。

## 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会 報告

日 時 平成23年6月21日(火)10:00~12:00

場 所 宝塚市役所 3-3会議室

出席者 下記以外のまちづくり協議会(19)  
市民交流部 森本部長、井上室長  
市民協働推進課 住吉次長、伊吹課長、平田・水野係長、高見、藤田、後藤

欠席者 仁川まちづくり協議会

### 議事概要(要旨)

#### 1 まちづくり協議会代表者交流会を発足させた経緯について

別紙資料“まちづくり協議会を発足させた経緯について(H23.6.21)”をもとに、飯室座長から交流会発足経緯説明。

#### 2 座長の選出について

次期座長の選出方法について、出席者全員から意見を伺い、

- ・ 会議ごとに座長を輪番制にしたらどうか?
- ・ 現座長か行政が座長を指名してはどうか。
- ・ 今年就任したばかりの会長には、座長は荷が重いので2年目以降の会長の中から選出してはどうか
- ・ 座長が一人では荷が重いので、正副の二人体制にしてはどうか
- ・ 各ブロックごとに二名を選出して正副制にしてはどうか?
- ・ これからの宝塚のまちづくりを進める中で、自治会連合会を無視しては進まない。自治会に精通している人が座長になるのが望ましい

等の意見が出ましたが、今後、自治会連合会等と会議等を進めていく上で、自治会連合会理事等の経歴をお持ちの西山コミュニティ・清水会長を推薦する声上がり、満場一致で今年度は清水会長に座長を御願ひすることになりました。

なお、正副会長は、武庫川両岸から1名ずつ選出したほうが良いという意見が多く、武庫川左岸の山本山手コミュニティの吉田会長が皆さんからの推薦により、副座長に選出されました。

#### 3 協働の指針策定について

「協働の指針ワークショップ実施要領」に沿って今後の説明  
各まち協より1名ずつワークショップに参加。

参加者:第1地区久米さん(高司)、第2地区・清水さん(西山)、第3地区・池田さん(宝小)、第4地区・藤本さん(小浜)、第5地区・尾仲さん(長尾)、第6地区・吉田さん(山本山手)、第7地区・中村さん(西谷)

#### 4 その他

(政策推進課より)

「第5次総合計画の推進と新しい公共」フォーラムについて  
パネラー(各日1名ずつ)の推薦依頼とフォーラムの参加についての依頼有  
パネラーの選出については、行政から直接依頼。

#### 5 次回の日程について

日時 平成23年 7月26日(火) 午前9時30分～  
場所 宝塚市役所 3-3会議室

## 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会 報告

日 時 平成23年7月26日(火)9:30～11:30

場 所 宝塚市役所 3-3会議室

出席者 下記以外のまちづくり協議会(17)  
市民協働推進課・住吉次長、伊吹課長、平田係長、高見、藤田、後藤

欠席者 仁川、末広、宝小 まちづくり協議会

### 連絡事項

- (1)末広小学校地域まちづくり協議会より、阪本直義さんが新たに会長に選出されました(名簿別添)
- (2)第7回 宝塚ハーフマラソン開催についてスポーツ振興課より説明有(資料別添)

### 議事概要(要旨)

- 第1回まちづくり円卓会議の反省について(自治連との事前協議に向けて意見集約)
  - 自治連とまちづくり協議会との会合をずっと望んでいたが、ここ数年実現出来なかったのが、良かった。
  - 前回のアンケートで、基調講演についての感想(問1～3)は思ったより良いが、講師の話は一般的な話であり、その通りにいかない場合もある。実践する側にとって何が必要かという視点が必要である。
  - 進むべき方向ははっきりしているのだから、それぞれが抱えている課題を出し合い共通の目的に向かって進んで行きたい。そしてそれぞれの共通課題解決のための方策を行政が主導して進めて欲しい。
  - 今後は行政ではなく、まちづくり協議会・自治会が中心となってまちづくりの発案をするべき。行政に任せていても進まない。
  - まちづくり協議会が発足してかなりの時間が経つが、その間に社会情勢等も変化してきた。今般、議論して総合計画を作ったが、その実現のためには、まちづくり協議会と自治会を中心とした地域の力が必要。
  - 講演会が終わってから、話し合うという形式は良かった。
  - 今後は各ブロック単位で進めていくべき。
- 協働の指針作成に向けたワークショップについて  
別紙資料“協働の指針ワークショップ実施要領(案)”をもとに、市民協働推進課から説明。
  - 円卓会議とワークショップの関係性はどうなっているのか。自治会とまちづくり協議会が中心となって計画を進めていくのであれば、円卓会議の途中でワークショップを始めるとも実現性が乏しいのではないかと。やたらと色々な会議があっても解りにくい。行政として進む方向を明確化する必要がある。
  - どの方向に進むかによってメンバーも変わるのではないかと。ワークショップ(案)のメンバーは福祉の方ばかり。企業関係の人が入っていないのに、今後の宝塚市のまちづくり経営の話が出来るのか疑問。
  - 宝塚ブランドをこれ以上低下させないようビジネスセンスのある方を入れるよう再考を依頼したい。

- ・ NPO・民生委員・PTA 等、それぞれの事前会議でワークショップの趣旨説明をして意見集約しておき、ワークショップに望んでもらうような仕組みにしておかないと、地域創造会議のように不発に終わるのではないかと。
- ・ 「市としての方向性をはっきりする」「メンバーの洗い直し」「まちづくりにはこれだけのメンバーで良いのか?」「各団体との問題点を共有できるか?」等について、検討をして次回の交流会で結果を報告して欲しい。

#### 4 その他(各まちづくり協議会の現状と課題など)

※各まちづくり協議会は、それぞれ課題を抱え、苦心しながらまちづくりに取り組んでいる。今後はそれぞれの課題を聞き、皆で解決の糸口を見出すような時間を大切にする代表者交流会としたい。

- ・ 市内に多数のNPOがあり、まちづくり協議会の中にも NPO を作っているところもある。これからは NPO との連携も必要だが、NPO には様々な分野があり、全てを掌握し、連携を取ることは難しい。
- ・ まちづくり協議会の人材が続かないことを懸念している。そのためにまちづくり協議会に求められている多方面への挑戦が困難になってきている。優秀な人材は2年で止め、人材は枯渇している状態。「市民力・新しい公共に期待する」と言うが、現実はそんなに甘くないと考えている。多少の手助けはしてくれても、リーダーシップを取ってくれるような人がいない。他のまちづくり協議会はどうか。
- ・ コミュニティのエリア内で人材を探していけば、役割に合う人材は発掘できるのではないかと。
- ・ 自治会からまちづくり協議会に対して「好きでボランティアをやっている」という発言があるが、それに反発するコミュニティの人も多い。近々、円卓会議の講師にコミュニティで講演を依頼し、コミュニティと自治会が反発しないよう取り組みを検討したい。コミュニティごとに現状・課題は違うため、各コミュニティごとに今後の取り組みを進めていくことが必要だと考えている。市・県民交流・スポーツ 21・社協とそれぞれに補助金があり、皆の活動やメンバーもバラバラになってきた。金のない団体には人が集まらず、権限もない。行政には補助金の一本化を依頼したい。
- ・ 市・県・社協とで補助金ごとに通帳・会計担当者、報告書が存在し、解りにくい。補助金の一元化を依頼したい。
- ・ 当コミュニティでは、自治会とコミュニティの関係は良好であるため、円卓会議の必要もないのでは?という意見もあった。だが、人材が無いという課題は同じであり、メンバー選出のため各団体から集まってもらい検討を始めている。
- ・ コミュニティ内の各部会のメンバー等が固定されていて偏りがあるように見受けられるため、今後、検討していきたいと考えている。
- ・ 世帯数が他のコミュニティの倍有るため、分割をして欲しいと考えているが、分割するとさらに新しい課題が生まれるのではないかと懸念もある。
- ・ 自治会の中から互選により、まちづくり協議会役員を選出しており、関係は良い。各部会の人たちも皆熱心にやってくれている。行政への要望も各自治会ではなくまちづくり協議会からの要望として提出している。県民交流で整備した拠点の光熱水費捻出のため貸館業務も行っている。

#### 5 次回の日程について

日時 平成23年 9月下旬頃  
場所

## 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会 報告

日 時 平成23年9月27日(火)10:00~12:00

場 所 宝塚市役所 3-3会議室

出席者 下記以外のまちづくり協議会(15)  
市民交流部 井之上室長  
市民協働推進課・住吉次長、伊吹課長、平田・水野係長、神崎、藤田、後藤

欠席者 仁川、良元、宝小、売布、小浜 まちづくり協議会

### 連絡事項

- 1 都市計画マスタープランについて 資料のとおり説明会開催の説明有(資料別添)
- 2 コミュニティビジネスについて NPO センターより資料に基づき説明(資料別添)  
まち協からの質問として  
Q: NPO は法人格を取った方が良いのか?  
A: 法人格取得すると登記が出来るようになり、事務所契約・車輛購入も出来る。  
Q: 「すぎのこ」は長尾コミュニティから独立して NPO として活動しているが、コミュニティにも利益還元したいが方法はないか  
A: NPO の利益をまちづくり協議会に寄附する。県民交流事業やまち協の事務を NPO に委託する。  
●各まちづくり協議会ともコミュニティビジネスには関心が深く、各まち協への出張相談依頼や、NPO とまちづくり協議会がコラボレーションし、宝塚モデルとなれるようなケースがあれば、また代表者会で報告いただきたいとの希望有り。

### 議事概要(要旨)

- 3 第2回まちづくり円卓会議の結果報告・今後の展開について  
(円卓会議の結果報告等について)
  - ・ 地域によってある程度の差がある。もっと各地区で密に話す時間が欲しかった。次回会議でも一斉に集まった場合でも、各グループでの話し合いの時間をもっと取って欲しい。
  - ・ 8/31 の会議後、9/17 に自治連・まちづくり協議会・地域の有志で意見交換会を実施し、今以上に連携を強化する必要があり、そのための統括的な組織が必要であるという方向性を確認した。今後はその詳細について検討していく。
  - ・ まちづくり協議会と自治連で協議した際、それぞれの地区で現状や課題が違った。そのために、それぞれが課題解決への目標が違ってグループの意見がまとまりにくかった。
  - ・ ワークショップをするにあたっての雰囲気づくりが悪かった。そうした手順がなく、自分のグループは、ワークの進め方について、再度研究し、ネーミングについても再考の必要有り。
  - ・ 自治会とまちづくり協議会の連携は密で課題も共有し、順調に進んでいるので、他のブロックの活動事例を聞く方が自分たちにはためになる(代表者会などのように)
  - ・ 自治会・まちづくり協議会両者の関係は密になっている。ワークの雰囲気作り進行はもう少し時間をかけて進める必要を感じた。また、円卓会議の前に、自治連・まちづくり協議会代表者の事前協議の時間をかける必要有り。その協議結果を円卓会議にも出していくべき。
  - ・ 地域としてはまとまっているが、市として進むべき方向も確認して、自分たちの役割も確認して地域にも還元し、協働していきたい。

- ・ 第1回の円卓会議の結果を踏まえ、事前協議を行うことにした。次回の会議にあたって、行政側の円卓会議の方向性・将来性を示して欲しい。自治連の研修会では、各校区ごとに協議会を作っていくという方向性が決まったと聞いたが、現組織と二重になるから大変だという声もあったと聞いている。自治会が協力してくれないとまち協活動が進まない。巨大な組織が出来ることに対して、市はどう考えているのか？地域創造会議も休止のままだが、円卓会議との兼ね合いはどうか？
- ・ 自治連がまちづくり協議会と重複する連合会組織を検討しているが、あまり好ましいとは思えない。行政はどう考えているのか。
- ・ どこのブロックにも問題はあある。人材不足は共通課題。人材交流の意味もあり、円卓会議をオープンにしても良いのでは。自治会連合会もまちづくり協議会も、皆、宝塚をよくしたいという思いで活動しているのは一緒。その手法が違うだけ。いずれはひとつになって目的を達成出来ると思っている。

市：自治会・まちづくり協議会の関係改善を狙った会議であり、結果は良かったと思っている。まちづくり協議会と自治会が新しい組織になる動きをさらに加速していきたい。コミュニティ設立当初に立ち返って自治会を中核とした組織を皆で考えて継続していきたい。円卓はあと一回開催を予定しており、今回はワークの進め方等さらに検討し、各グループの話し合いも継続して開催したい。その後はさらに参加者を拡大して、他団体も加わって創造的・発展的に拓げて進めたい。

校区ごとの連合会組織の話は数年前から有り、自治連の中でも意見が分かれている。各地区ごとに話し合って今後の方向性を決めて欲しいということになっている。

- ・ 宝塚の目指す方向性・名物を教えて欲しい。それに向かって皆も進んでいく。人材育成のためには事業が欠かせない。市が決めた宝塚ブランド等は、抽象的すぎてわからない。もっと具体的に決めて、何かを作って市を活性化すべき。財源・金がないのがコミュニティの悩み。補助金だけに頼らずCBを考えているが、市の産業はどんどん減っている。それを考えて欲しい。
- ・ まちづくり協議会の中に自治会が入っているという意識を皆が持つことが必要。自治会は会費で、まちづくり協議会は助成金でやっている人と区別している人も多い。皆でまちづくり協議会を作って拓げていくという意識を皆に持ってもらうことが必要。
- ・ 次回の円卓では冒頭に自治会・まちづくり協議会それぞれが目指すものを確認して、継続審議を避け、成果物が欲しいと考えている。

※ 次回円卓会議の開催前に、前回と同様、まちづくり協議会・自治会連合会・宝塚市で協議の場を持つ。市として、今後の明確な目標が必要であり、しっかり情報開示すべきである。

#### 4 協働の指針策定に向けたワークショップについて

- ・ 当初、8月末からワークショップをスタートする予定と聞いていたが、どうなっているのか？  
第5次総合計画が今年度からスタートしている中、その計画に基づいた協働の指針を今から策定している現状に疑問を感じる。

市 現在、ワークショップの構成メンバーの検討中であり、10月(11月にずれ込む可能性有)スタートを目指しており、来年3月までに5回開催する予定である。

#### 5 全まちづくり協議会のデータについて

各まちづくり協議会総会資料をもとに別紙のとおり市が作成。また、各まちづくり協議会のエリアについても現状を確認したいので、各まちづくり協議会で確認いただき、訂正があれば市に教えていただきたい。

その情報をもとにデータを修正し、まちづくり協議会で参考として共有するとともに、自治会連合会にも情報提供する。

#### 6 次回の日程について

日時 平成23年11月30日(水)午前10時～  
場所 宝塚市役所 3階 3-3会議室



## 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会 報告

日 時 平成23年11月30日(水)10:00~12:00

場 所 宝塚市役所 3-3会議室

出席者 下記以外のまちづくり協議会(15)  
市民協働推進課・住吉次長、伊吹課長、平田・水野係長、後藤

欠席者 仁川、美座、安倉、小浜、長尾まちづくり協議会

### 議事概要(要旨)

#### 1 地域の防災総合力の向上について(宝塚警察署 警備課 谷口警部補、中野巡查より説明)

##### ※資料別添のとおり

- ・ 警察は「防犯」だけでなく、「災害対策」についても活動しているが、市民の方にはあまり知られていない現状であるので、まず知っていただきたい。
- ・ 各地域での防災訓練や防災に関する催しがあれば、是非警察としても一緒に参加させていただきたい。また、ハザードマップの作成等の際、警察としてのアドバイスや、危険箇所の情報提供もしたいので、遠慮なく相談いただきたい。さらに、地域の危険箇所情報も、警察が把握できていない場合もあるので、情報提供いただきたい。

##### ※出席者からの意見

- ・ まずは、警察・消防・市(行政)の連携が必要である。緊急時にそれぞれがどう活動するのか連携はとれているのか。消防・市(行政)と警察は密接な連携をとって欲しい。
- ・ 災害時に地域から「警察」「消防」「市(行政)」全てに連絡するのは困難である。それぞれが勝手に活動するのではなく、統制するトップや命令系統を明確にする必要がある。
- ・ 災害時に市としてはどのように対応しているのか。

##### ※宝塚市

- ・ 災害時には災害対策本部を立上げ、それぞれが役割に添って活動している。

##### ※宝塚市警察署

- ・ 災害時は、人員が可能であれば市へ職員を派遣しているが、どのレベルから派遣するか等、明確な基準は無いので、今後検討をいたします。

#### 2 コミュニティビジネスについて その後について(資料別添)

##### ※ 中山台コミュニティ

- ・ 前回のコミュニティビジネス説明後、コミュニティ役員で勉強会を立ち上げ、11/22にNPOスタッフとともに西須磨の「だんらん」という助け合いNPOを見学。1998年の設立で、2001年法人化。会員制で入会金2000円・年会費3000円、利用料100円プラス交通費でやっている。会食サービスやサロン活動が中心。

当コミュニティでも法人化はしていないが、既にやっている事は多い。コミュニティの福祉が外出介助などを行っている。現在は1時間600円でやっているが、法人化すると1000円くらい必要かもしれないので、利用者の支出が大きくなるため、今後も勉強会を実施し見当していく予定。その収益をコミュニティで使うのかどうかも市と相談しながら考えたい。

※ 山本山手地区まちづくり協議会

- ・ 当地区でも前回の交流会が説明があった後、役員会に諮ったところ、県民交流の補助が切れた時のことを考え、早くから NPO 等のことを考えないといけないとの声が多く、今後の役員会に NPO に来てもらって話を聞く予定。地区内のデマンドバス等の課題もあり、いかにして金を生み出してコミュニティに入れるか、を今後考えて行きたい。

※ 出席者からの意見

- ・ 自治会・コミュニティはボランティアで無償でやっているが、NPO になると金が必要で利用料100円～200円とるとなると、「金がかかるならいらない！」という市民が多いのではないかと？ 有償で使うということについて、使う側の市民の意識改革も必要。
- ・ 若い世代も多いがこうした話題にも無関心であり、当地区では住民にアンケートを実施予定。
- ・ バス停まで行けない人が増えており、社協ともデマンドの有効性等について相談しているが、やはり料金がネックで、各自治会から月 100 円・年間 1200 円貰うのは困難。
- ・ 現在の路線バスの他に、近くの動物霊園が送迎バスを解放してくれていて、それを利用する市民も多い。
- ・ 地区内には高台に住む高齢者も多いが、現在運行しているバスは利用者が少なく、赤字で、廃止の可能性もある。高齢者は不便な高台から低地に引っ越す人も多い。まち協組織としても、きちんと取り組んで行かなければならない問題と考えている。
- ・ この問題は、全地区が抱えている共通の全市的な課題だと思う。事務局から自治会連合会にも声をかけてもらって、共同で取り組む必要があると思う。

3 第3回まちづくり円卓会議に向けた、自治会連合会との事前協議について

- ・ 先日、自治会連合会の会長以下3名と面会し、事前協議を行い、次回12/26(月)午前9時30分～12時に、第3回目の円卓会議開催が決まった。自治会連合会にもまちづくり機用議会にも問題がある(人材不足…etc)ことについて、腹を割ったざっばらんな会にしたいと考えている。最後にはまた各グループからまとめを発表してもらおう。
- ・ 意見を吸い上げて、それをどう持っていくかという調整役がない。以前も社協で地域の人間を集めた研修会があったが、その時の結果は行政に届いているか？あっちこちで意見をただ聞いていても駄目だと思う。誰が取り纏めていくのか？市が取り纏めの役を担っていくべきだと考える。
- ・ 地区内でも道路改修工事の際等は、各まちづくり協議会・自治会が協力して考えている。常々そうした場があれば、もっと円卓で忌憚のない意見があると思う。
- ・ 地区によっては、自治会とまち協と話しが出来ないという地区もあると聞かすが、誰がリーダーになるのか、どのように進めていくのか？を考えなければならない。これまでの会議をムダにしない努力が必要。
- ・ 行政がもっとリーダーシップを握るべき。市民の意見は大切だが、それを引っ張るのは行政。引っ込み思案すぎて、連携が不明瞭なので、円卓でも進めていく道筋が見えないので話が進まない。もっと行政がビジョンを見せるべき。
- ・ 行政がもっと捨て身で迫るべき。意気込みや覇気が伝わってこない。信念を持って行動して欲しい。円卓の行き着く先はその辺になるのではないかと。

4 協働の指針策定に向けたワークショップの展開について

第1回目 12月10日(土)14:30～16:30 宝塚市役所3階 大会議室

第2回目 12月18日(日)14:00～16:00 宝塚市立勤労市民センター 2階

にワークショップが開催され、まちづくり協議会から7名が参加する。

結果については、次回のまちづくり協議会代表者交流会で報告する。

5 第7回宝塚ハーフマラソン大会について

例年12月23日に開催する宝塚ハーフマラソン大会では、市の要請を受けたまちづくり協議会がボランティアとして協力している。

※出席者からの意見

市街地をコースに含めると、交通規制等の影響がある。武庫川河川敷をもっと利用するなどして、コースの見直しを検討して欲しい。

※スポーツ振興課 小川課長

コースの見直しについては、同じような声もあり検討しましたが、「宝塚らしさ」として、歌劇場の前で出発し、宝塚ジェンヌに見送られる事が好評でもあり、今回も同じコースになっています。今後も引き続き検討いたします。

6 その他

※出席者からの意見

コミュニティの創造と発展の冊子は作成からかなりの年数が経っている。いつまでこのままなのか。早急に見直しが必要である。

※市民協働推進課

平成24年度に協働の指針作成し、それを受けて見直す予定である。(平成25年度)

5 次回の日程について

日 時 平成24年1月27日(金)15:00～17:00

場 所 未定(終了後、新年会を開催予定)

## 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会 報告

日 時 平成24年1月27日(金)15:00~17:00

場 所 宝塚市役所 3-3会議室

出席者 下記以外のまちづくり協議会(18)  
市民協働推進課・住吉次長、伊吹課長、平田、後藤

欠席者 仁川、宝小 まちづくり協議会

### 議事概要(要旨)

#### 1 第7回宝塚ハーフマラソン大会ご協力お礼

※出席者からの意見

- ・従事者ジャンパーの重複配布や、当日の配置人員等、ムダが多いと感じた。改善を希望する。

#### 2 地域コミュニティ紙での自転車安全運転記事掲載及び自転車教室開催について (交通安全課より依頼)

※ 資料別添のとおり

※ 出席者からの意見

- ・自治会広報紙で交通安全のPRがあったが、未加入者約3万世帯にまち協広報紙を通じて、PR出来ないか?
- ・広報誌もなかなか読んでもらえないので、「地域のどのあたりで事故か起きた」等の写真や記事を提供して欲しい→(交通安全課回答・警察とも協議しており、地図などを添えて提供可能。広報誌への原稿執筆依頼も受け付けている。)
- ・学生や大人に対する研修は考えていないのか→(交通安全課回答・地域から依頼があれば出向く。就労者向けに日曜でも対応可能で、自治会やまち協にも派遣対応してきた。たくさんで注意・啓発して安全な道路をつくりたい)
- ・歩行者もマナーが悪い。自動車免許更新時に研修を義務付けを検討してはどうか。
- ・各学校の教育現場や家庭でも交通安全に対する指導が必要ではないか。

#### 3 第3回まちづくり協議会・自治会連合会の円卓会議を振り返って (清水会長の総括)

- ・自治会とまち協はお互いのマイナスを補完して、それぞれが出来ないことをしていく二輪車の関係がないと市民自治の関係は成り立たない。それが新しい公共、新しい理念でやっていけると思う。今後は各地区ごとに継続して円卓会議をやっていき、そのうえで民生委員・PTAも含め地区ごとに発展を目指す。
- ・行政にも改革を希望する。住民と行政の関係をどうして密にしていくか。各地区ごとにベテランの専任職員を配置して欲しい。各まち協・自治会の会合に顔を出し、課題を吸い上げ、庁内で検討して、また地域にフィードバックして欲しい。やりっぱなしで終わってはいけない。フォローが少ない。
- ・自治連でUPしているHPに、まち協のPRを御願いたい。尾崎会長にも口頭で依頼した。(市民協働推進課回答→検討の余地有り)

・円卓会議の途中で市長があいさつに来たが、会議内容を知らないように感じた。市長は会議の詳細について承知しているのか。今後、地区の行事でも案内文を出すか、きちんとした回答が出来ないなら、今後は参加して欲しくない(あいさつだけで中座するくらいなら欠席の方が良い)

#### 4 協働のワークショップの報告 (吉田 副座長より参加報告)

#### 5 コミュニティビジネスの進展について (中山台 大村会長より報告)

- ・高齢化率 50%を超える地区もあり、バス等の交通用具は欠かせないが、クラレのバスも廃止を希望しており、コミュニティの「ゆめんぼ」も時給が安く若い世代の参加も難しい。
- ・コミセンの指定管理で CB の余地はあるが、利用規定を緩めてもらわないと収益はなかなか上がらない(営利団体への使用許可等)。規模の小さい中山台会館の方が収益が上がっている。

#### 6 宝塚警察署防犯課—その後の展開について

- ・逆瀬台5丁目から地域の安全について依頼。
- ・小浜まち協では、12月に安全対策推進部に来てもらって一緒に地域をパトロールしてもらった。
- ・一小では、警備課から県警察に依頼してもらって、まち協に災害救助用具などを持参してもらって説明を聞いた。
- ・今後もまち協～行政～警察を連携してつなぐシステムづくりを

#### 7 その他

昨年度、実施した市長との懇談会はどうするか。

- ・円卓会議は、各地区代表者が集まる会議であり、最初から市長にきいてもらうべきだった。車座集会よりも大事な会議であった。次の機会には必ず最初から聞いて欲しい。
- ・このことは、文書か口頭で市長に報告して欲しい。懇談会は見送る。

#### 5 次回の日程について

日 時 平成24年3月23日(金)10:00～12:00  
場 所 宝塚市役所 3-3会議室